

8月28日(金) 経団連ホールにて、当研究所は、「ISO50001(エネルギーマネジメントシステム国際規格)の策定に関するシンポジウム」を開催します。

1. 趣旨

省エネルギーのみならず、エネルギーコストやエミッションの低減を組織として統一的にマネジメントする仕組みをエネルギーマネジメントシステムといい、世界的にもエネルギーを使用する多くの企業・組織が実践しはじめています。このような状況に鑑み、ISOは2008年2月5日、エネルギーマネジメントシステムの国際標準化を関係各国の投票によって決定しました。

ISOはプロジェクトコミッティーとしてPC242(Energy Management)を立ち上げ、規格番号としてISO50001が与えられました。我が国では当研究所が国内審議団体として認定を受け、策定作業の事務局として参加しております。

我が国は省エネルギー法に基づいて、産業部門から民生部門に至るまで様々な取り組みが進められています。また、ISO14000ファミリーの環境マネジメントシステム規格も我が国では広く普及しており、環境側面から省エネルギー、温暖化ガスの低減の取り組みが進められているのが現状です。一方、本規格が策定され、国際的に普及した場合には産業活動に様々な影響があると予想されます。

本シンポジウムでは、我が国が規格策定に積極的に貢献しつつ、我が国の組織にとって有益で使用しやすいISO50001を策定することを目的として、我が国の貢献のあり方、本規格の策定作業メンバー等の有識者を交え、本規格が我が国に与える影響について議論を行い、今後我が国の採るべき対応について共に考える場を提供するものです。

2. 論点

本規格の策定については議長国である米国を始め各国も大きな関心を寄せており、原案作成の国際会議では活発な議論が交わされています。原案の文章については、まだ不確定な要素も残っており、今後各国のコンセンサスが得られるまで難航も予想されます。したがって、我が国の省エネのベストプラクティスを策定中の本規格に盛り込み、我が国の実情と齟齬がないよう留意して策定作業を継続する必要があります。本シンポジウムでは、

講演者から、我が国の貢献のあり方、本規格が我が国に及ぼす影響について聴くことにより、今後我が国が採るべき対応を考える一助とします。

本年11月にはロンドンにおいて第3回目の国際会議が開催され、規格案の詳細が議論されます。

同会議に向けた国内審議関係者の取り組みを紹介いたします。

我が国の省エネルギーの取り組みを、本規格の策定に活かす観点から議論を行い、今後の我が国のエネルギーマネジメントのあり方について考えます。

関係各位のご来場をお願い申し上げます。